

《馬乗》の建築短歌

織田信長公を御祭神とする建勲神社が鎮座している史跡・船岡山は、遊歩道が整備された公園になっています。別格官幣社である建勲神社のHPには、別格官幣社の説明文も掲載されているので引用します。

建勲神社は明治8年(1875)4月24日に別格官幣社に列格されました。別格官幣社とは明治政府によって新たに設けられた近代社格制度における神社の社格の一つです。

別格官幣社には国家のために特別な功労があった人物を祀る神社が列格されており、当時の「官国幣社昇格内規」には次のとおり列格基準が定められていました。

「国乱ヲ平定シ国家中興ノ大業ヲ輔翼シ、又ハ国難ニ殉セシモノ、若クハ国家ニ特別顕著ナル功労アルモノニシテ、万民仰慕シ、其ノ功績現今已ニ祀ラレシモノニ比シテ譲ラサルモノ、但シ一神一社ニ限ル」官国幣社昇格内規

明治5年(1872)に楠木正成公をお祀りする湊川神社が列格されてから、昭和21年(1946)に制度が廃止されるまでの間に、28社が別格官幣社に列格されています。



〈建勲神社本殿の神門〉



〈建勲神社の拝殿〉

ちなみに、織田信長公以外の戦国武将（大名）も、別格官幣社の御祭神として祀られています。毛利元就や上杉謙信、徳川家康に豊臣秀吉、前田利家です。

ヨーロッパの国際都市に大聖堂があるように、日本の国際都市にも有名な神社・佛寺があり、観光名所になっているのは都市建築史における共通点のようです。『誰でも読める日本近代史年表』で、建勲神社が別格官幣社に列格された明治八年・乙亥・1875年を参照すると、2月11日「大久保利通・木戸孝允・板垣退助、大阪で会談、政治改革などで意見一致（大阪会議）。」と記載されています。

当時の日本では、第122代・明治天皇の政府による国家改革が行われ、聡明な帝によって別格官幣社のような宗教政策も進められていたという事です。

おわりに、冬の日 of 建築短歌を詠ませていただきます。

～ まぼろしや 船岡山の 君おほす

ゆめの都へ 橋を架けよと ～

大阪工業技術専門学校 工業専門課程 I 部 建築学科 1998年卒業 川島 瑞穂